

大学院
(男女共学)

大 学

短期大学部

高等部

中学部

小学部
(男女共学)

幼稚部
(認定こども園・男女共学)



Contents

特集1 夢をかなえるセンター
「Sagamiチャレンジプログラム」… 2～3

特集2 小学部 プログラミング教育と英語教育… 4

- 第52回相生祭告知／
『Sagamiチャレンジプログラム』for kids』開催報告… 5
- 学園イベント情報… 6～7
- 学園各部報告… 8～11
- 同窓会だより／ マーガレット募金… 12



見つめる人になる。見つける人になる。



相模女子大学

SAVINGS NEWS

特集1

夢をかなえるセンター「Sagamiチャレンジプログラム」

夢をかなえるセンターは学生が教養や主体性を身につけるための「Sagamiチャレンジプログラム」によって学生を支援します！



「Sagami チャレンジプログラム」とは？

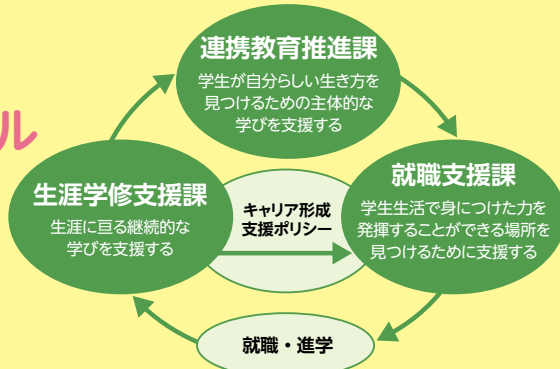
本学では、学園スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもと、女性のしなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つめる人材を育成することを教育目標に掲げています。「Sagamiチャレンジプログラム」は、この教育目標に則り、学生のみなさんの「キャリア形成」を支援する学修支援プログラムです。

キャリア形成支援

キャリア形成支援ポリシー

相模女子大学・相模女子大学短期大学部は「社会との関わりの中で積み重ねる全ての経験を通して、社会と自分自身をしっかりと見つめ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を「キャリア形成」と位置付け、学生が主体的に「キャリア形成」をするための「学びの場」を提供し、そこでの活動を支援します。

夢をかなえるセンターの支援体制と学びのサイクル



キャリア形成支援

「Sagamiチャレンジプログラム」の活動により期待される効果

- ★自分の強みと弱みを客観的に知ることができます。
- ★強みを伸ばし弱みを克服することができます。
- ★努力と学習の成果（強みをどれだけ伸ばすことができたか、弱みをどれだけ克服することができたか）や自分の成長を実感することができます。
- ★次の活動に繋げることでより身につけた力を発揮することができます。
- ★自らを生かす場を見つけることに積極的になります。

学修支援プログラム

「Sagamiチャレンジプログラム」で身につく3つのチカラ



学びの仕組み

「Sagamiチャレンジプログラム」における学びの仕組み「マーガレットスタディ」

「Sagamiチャレンジプログラム」における各活動においてPDCAサイクルを回すことにより、目標の達成度を確認しながら自身の成長に気づき、弱点を補うことで次の活動につなげています。



「Do」の実施例 地元酒蔵とこだわりの梅酒造り

地元酒蔵「久保田酒造」とコラボし、大学内で収穫した梅を使った梅酒「翠想(すいそう)」を毎年造っています。今年も学生・教職員が感染症対策を徹底した上で、学内にあ
る梅の木から実の収穫作業を行いました。例年は1つずつ手作業でヘタを取り除き、洗
浄作業をするなどの全ての工程に学生が携わっていますが、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、連携教育推進課の職員が久保田酒造へ赴き作業を行いました。なお、瓶のラベルデザインは生活デザイン学科の学生が製作しています。

出来上がった梅酒はボーノ相模大野2Fのさがみはらアンテナショップ「sagamix(サガミックス)」にて販売しました。
※飲酒運転および未成年者の飲酒は法律で禁止されています。



カフェ
紹介

キャリア☆カフェ ユメカナ★カフェ

教職員、地域、外部講師の方など社会で働く(働いた)大人による講座・座談会です。

学生が主体となって開催する講座・座談会です。

「ユメカナ★カフェ講座」実施例

TFT・サガジョ学生主催

「ユメカナ★カフェ～

食べるだけの国際協力～」をオンライン開催しました

学生団体 TFT (Table for Two) の「活動の魅力をもっと多くの人に伝えたい」という思いをきっかけに、取組み内容の紹介や学生募集をオンライン形式で開催しました。

校内カフェテリアでの新規メニューの提供だけでなく、発展途上国へのスタディツアーや、外部の企業とのコラボ企画など、広範囲に亘った活動となっており、初めて聞いた学生からは驚きの声が聞かれました。

主催学生からは「緊張したが、うまく伝えられた。ブレイクアウトセッションでは、一人一人に対し親身になって受け答えすることができた」との感想があり、参加学生からは「活動の魅力を知ることができ、ぜひ参加したい」との感想が寄せられました。



「キャリア☆カフェ講座」実施例

「リーダー・副リーダーの役割とは?」を オンライン開催しました

外部講師をお招きし、「リーダー・副リーダーの役割とは?」をテーマにしたオンライン講座を、「Sagami チャレンジプログラム」のプロジェクトリーダー・副リーダーに向け開催しました。

「組織のリーダーにはどのような役割が求められているのか?」「リーダーの在り方には複数のタイプが存在し、自分自身はどのようなタイプなのか?」等、自分自身のこれまでの経験を踏まえながら、リーダーとしてどのように組織を導いていくのかを学びました。

講座の中では参加者同士で実際に学んだことを実践する機会もあり、その場で感じたことや発見したことを共有し、その上で今後に向けたアドバイスをもらうことにより学びを深める貴重な機会となりました。

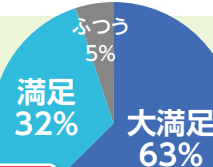


参加学生からのアンケート結果

キャリア☆カフェ、ユメカナ★カフェに参加した学生へのアンケートによると、カフェへの満足度を「大変満足」「満足」と答えた学生は95%と、高い満足度が得られています。また、各種カフェは講座を受けるだけでなく、様々な学科・学年の学生と交流ができる新たなつながりの場としても活用されています。

キャリア☆カフェ
ユメカナ★カフェ
学生満足度

大変満足・満足
95%!!



プロジェクト
紹介

サガジョ盛り上げ隊 プロジェクトとは?

“「Sagamiチャレンジプログラム シラバス」に記載されている社会貢献活動や国際教育の活動に一度でも参加した経験があること”をプロジェクト参加の必須条件として、自身のステップアップを目指す全学年・全学科の学生に対して開かれたプロジェクトとして2020年度に発足しました。現在は一期生の10名が活動を行っています。

主な取組み 夢をかなえるセンターの取組みを学生目線で発信するサイト

「夢をかなえるセンター 学生運営サイトの新設・運営」

サイトの画像や説明文、バナーのデザインを主に行いました。メンバー間で意見を出し合い、見やすさや伝わりやすい表現を考え、より良いサイトになるように努めました。また、学生に「夢をかなえるセンター」を有効活用してもらえるよう連携教育推進課内「ラーニングコモンズ」についての紹介ページも制作しました。



夢をかなえるセンター
学生運営サイトはこちら!
<https://ymkn.sagami-wu.jp/>



最新の活動紹介 神奈川つくい農業協同組合×学生団体「マッチングプロジェクト」 スパークリング日本酒「HARUHIME」のラベルをデザインしました

地域の活性化に向けた活動を行う「マッチングプロジェクト」の学生が、相模原市津久井地域で採れたお米「はるみ」を100%使用したスパークリング日本酒「HARUHIME」の、瓶のラベルをデザインしました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、製作に向けての打合せは全てオンラインで行われ、学生たちが神奈川つくい農業協同組合に商品に対するコンセプトを伺いながら、何度も試作を重ねてデザインを完成させました。「HARUHIME」は、津久井地域(相模原市緑区)のJA直売所「あくりんず つくい」にて販売中です。

※飲酒運転および未成年者の飲酒は法律で禁止されています。



特集2 小学部プログラミング教育と英語教育

今の小学生が大人になる10年後・20年後、社会や私たちの生活はどのようになっているのでしょうか。小学部を卒業した子どもたちには、未来で活躍してほしい。そんな想いでプログラミング、英語の学習を行っています。

プログラミング学習が担う役割

昨年度より全国の小学校でプログラミング学習が必修化されました。プログラミングは、21世紀の今、読み書きや計算と並んで大事とされる基本的スキルです。これからの社会を生きていくためには、コンピュータがプログラミングで動いていることを理解し、より適切に、効果的に活用していくことが求められます。

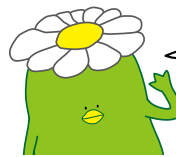
小学部では、2時間連続の授業を全12回（24時間）行っています。豊富に揃ったロボット教材を用いた授業が特徴です。ロボット教材を使う良さは、モータ（動き）とセンサ、プログラムの関係が学べることで、ロボットの動きをその場で確認できることです。プログラムは、何度も作り直すことが可能なので、うまくいかない時には、動きを確認しながら何度も修正を重ね、原因を模索しながら成功体験を積みみます。



動く仕組みについて
考えている様子（1年生）



実験しながら
考えている様子（3年生）



小学部での
取り組みを紹介！

具体的な授業の進め方と特徴

【実践1】2年生

2年生では、センサのはたらきを学習しています。見本のプログラムを参考に作り、センサが何に反応するかを考えます。はたらきが分かったあとは、見本の動画を見て、プログラムの改造に挑戦します。この日は、傾きを感じするチルトセンサを使った授業！そして、課題は、「前に傾けたら前に進み、後ろに傾けたら後ろに進む」プログラムです。子どもたちは、動画でロボットにさせたい動きを確認した後、ペアで相談しながら取組んでいました。

【実践2】6年生

6年生では、Pepperを用いたプログラミングを通して、人間とロボットの共生について学習しています。タッチセンサや音センサ、ディスプレイなど身近で使われているものに注目し、これらがどのようなプログラムで使われているか、実際に作りながら考えます。iPad上のバーチャル Pepper で動きを確認した後、実際の Pepper にプログラムを送ります。その後、Pepperのところに集まり、子どもたちは自分のプログラムを再生させながら、作ったプログラムを発表します。

（小学部・市川）



作ったじゃんけんプログラムで実際に遊ぶ姿
（6年生）



ロボットが完成し、ハイポーズ！
（2年生）



何度も再生しながらプログラムづくり
（2年生）

小学部のグローバル・チャレンジ！ 英語教育への取り組みについて

英語科では、英語を子ども達の未来を切り開く学問と考え、「聞く・話す・読む・書く」の4技能が総合的に身につくカリキュラムを実践しています。特色としては、実践的スピーキング力を育成する4年生からの年間20回の外国人講師と進めるオンライン英会話、1年間の学習の集大成として行う1人1スピーチ、豊かな表現力を育成するWritingなどがあげられます。他にも、様々な取組みを入れ、楽しみながら英語力の向上につながる授業を展開しています。

（小学部・胸方）

未来につながる学習

校長 川原田 康文



AIの進化や新しい科学技術の開発とともに、社会が大きく変わろうとしている今を生きる子どもたちに必要な力とは、興味あることにじっくりと取り組み、新しいことを発見し創造する力です。また、グローバル化とともに他国の人とコミュニケーションをとりながら仕事をするようになると思われれます。小学生の時より、プログラミングや英語を学ぶことは、子どもたちの世界観を広げ、世界や未来につながる学習となると考えます。



笑顔あふれるオンライン英会話の様子



協力して英単語を探している様子

告知



たのしみ
がっぱ!

2021年 第52回 相生祭

開催期間:12月6日(月)～12月25日(土)

今年の相生祭はオンライン開催! 詳しくはホームページをご覧ください



統一テーマ

Memories ～今だからこそ、思い出を刻め～



- ・クラブ発表
- ・トークショー
- ・お笑いライブ
- ・花火 他

みのがせない
がっぱ!



オンデマンド配信

- ・ファッションショー
- ・地域物産展
- ・各学科ゼミ活動や
課外活動の紹介
- ・各クラブ活動紹介動画 他



*内容は変更となる場合があります。*当日は関係者以外の方は入場できませんので、ご注意ください。*写真は、過去の相生祭の様子です。

開催報告

「『Sagami チャレンジプログラム』for kids」をオンラインにて開催しました



8月5日(木)、毎年人気のイベント「Kids サマースクール」を今年度は「『Sagami チャレンジプログラム』for kids」と名称を変えてオンラインにて開催しました。本プログラムは、大学生が社会貢献活動や国際交流などさまざまな活動にチャレンジする本学独自の学修支援プログラム「Sagami チャレンジプログラム」を地域の小学生に向けたプログラムとしてアレンジしたもので、学部・学科の学びや地域連携活動など本学園の特色ある取り組みを、地域の方に開放し学びの機会を提供する社会貢献事業です。

当日は、ランブシェード作りや英語劇、クイズで学ぶSDGsなど本学の教員や学生がそれぞれ工夫を凝らした魅力的な講座が開講され、地域の子どもたちは教員や学生と共に夏の楽しいひと時を過ごしました。

当プログラムは、「Kids サマースクール」から数えて今回で7回目の実施となります。今後も夢をかなえるセンター連携教育推進課では、このような取り組みを通じて地域に貢献できるよう尽力してまいります。



クイズを通してSDGsを楽しく学ぶ



学生が主体となって各講座の紹介パンナーを作成

2021年度 学園イベント情報

オープンキャンパス・学校説明会

大学ではオープンキャンパスや入試説明会、併設各部では学校説明会や体験授業など、今後開催予定の学園イベント情報を一挙ご紹介！

一部のイベントは新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策としてオンラインで開催します。先着順や事前予約制のイベントもありますので、詳細は各部ホームページでご確認の上、お早めにお申し込みください！



大学院 大学 短期大学部

●オープンキャンパス (HPにて要予約)

・11月28日(日) 12時～15時 ・3月19日(土) 12時～16時

学科説明 / 各種個別相談 / キャンパスツアー など

*開催日より上記内容の他「模擬授業」や「学科の先輩と話そう」も実施します。

また、日程・実施方法、事前予約の有無等が変更になる場合があります。事前にホームページで最新情報をご確認ください。

●WEBオープンキャンパス

自宅にいながら大学・短期大学部の学びの内容を理解できる WEB オープンキャンパスを開設しています。

詳しくは
こちら➡



●入試説明会 (HPにて要予約)

・12月11日(土) 14時～16時

大学・短期大学部の入試に関する説明のほか、個別相談、施設見学などができるイベントです。

*日程・実施方法、事前予約の有無等が変更になる場合があります。事前にホームページで最新情報をご確認ください。



【お問合せ】

相模女子大学・相模女子大学短期大学部入試課

●詳細はホームページをご覧ください。 www.sagami-wu.ac.jp

フリーダイヤル：0120-816-332 TEL：042-749-5533 FAX：042-742-1732

(平日9時～17時、土曜日9時～12時30分) Mail：kouhou@isc.sagami-wu.ac.jp

高等部

●学校説明会・体験授業 (HPにて要予約)

・10月23日(土) 14時～16時 (申込期間：9月26日(日)～10月22日(金))

・11月27日(土) 14時～16時 (申込期間：10月24日(日)～11月26日(金))

・12月4日(土) 14時～16時 (申込期間：10月24日(日)～12月3日(金))

●入試個別相談会 (申込期間：11/29(月)～各相談日の2日前まで)

・12月6日(月) 16時～19時

・12月7日(火) 16時～19時

・12月8日(水) 16時～19時

●WEBオープンスクール

WEB学校説明会でサガジョの魅力を発信しています。 詳しくは

こちら➡



【お問合せ】

相模女子大学高等部

TEL：042-742-1442 FAX：042-742-1441 (平日9時～17時、土曜日9時～12時30分)

Mail：kou@mail2.sagami-wu.ac.jp

※日程・実施方法など、予定は変更となる場合があります。



中 学 部

●プチセツ (HP にて要予約) 初めての方向けの説明会

・11月17日(水) 10時～11時 ・1月12日(水) 10時～11時

●プログラミング入試体験会【小学6年生対象】(HP にて要予約)

・11月20日(土) 9時30分～11時30分 ・12月11日(土) 9時30分～11時30分

●適性検査型入試体験&説明会【小学6年生対象】(HP にて要予約)

・11月20日(土) 14時～16時 ・1月8日(土) 14時～16時

●過去問解説会【小学6年生対象】(HP にて要予約)

・12月4日(土) 9時30分～12時

●ナイト説明会(予約不要) 初めての方向けの説明会

会場：学校ホームページでご確認ください。

・11月17日(水) 19時～20時 ・12月17日(金) 19時～20時

・1月21日(金) 19時～20時



【お問合せ】 相模女子大学中学部

TEL : 042-742-1442 FAX : 042-742-1441 (平日 9時～17時、土曜日 9時～12時30分)

Mail : chu@mail2.sagami-wu.ac.jp

小 学 部

●学校説明会 *次年度以降受験者向け (HP にて要予約)

・11月25日(木) 9時20分～12時 学校・教育の特色をご紹介します。

●公開行事(予約不要)

English Performance Festival 12月20日(月) 午前中

造形展 2月11日(金) 9時～15時

●オンライン個別相談

随時申込み受け中 詳しくはこちら➡



【お問合せ】 相模女子大学小学部

TEL : 042-742-1444 FAX : 042-742-1429 (平日 9時～17時、土曜日 9時～12時30分)

Mail : sho@mail2.sagami-wu.ac.jp

幼 稚 部



●こんにちは会 (電話にて要予約)

11月10日(水)、12月15日(水)、1月19日(水)、2月16日(水)、3月2日(水)

10時～11時 *受付開始9時40分

こんにちは会は、幼稚部を開放し、未就園児と保護者の方にお友達と楽しんでいただく交流の会です。新型コロナウイルス対策を行い、事前予約制となります。費用は不要です。当日は上履きをご用意ください。(子どもは洗った外靴、保護者はスリッパでも可)。活動しやすい服装をお願いします。



【お問合せ】 認定こども園相模女子大学幼稚部

TEL : 042-742-1445 FAX : 042-742-1431

学園各部 報告

学園

風間誠史理事長らが帝国女子専門学校跡地にある碑を訪れ、戦災犠牲者を慰霊しました

風間誠史理事長をはじめ、田中百子同窓会長、同窓生が本学の前身である「帝国女子専門学校」の跡地（東京都文京区大塚）に立てられた「大塚発祥の地」の碑を訪れ、戦災犠牲者を慰霊しました。

1945年4月13日夜半から14日未明にかけての大空襲により、帝国女子専門学校、校舎と学寮は全焼し、学生3名・寮母1名が犠牲となりました。当時の田中義能校長は「校舎は焼けても、学校は焼けない。学校には永遠の命がある。」と教職員や学生を励まし、間もなく拓殖大学の一部を借りて授業を再開しました。その後、現在の相模原市の旧陸軍通信学校跡地に移転し、相模女子大学として発展しました。



「大塚発祥の地」の碑

この戦災から76年がたち、この地を訪れ、犠牲になられた方々に哀悼の意を捧げました。

（総務課）



「帝国女子専門学校」の跡地を訪問

風間誠史理事長、田畑雅英学長らが相模原市役所を訪問し、本村賢太郎市長に面会しました

風間誠史理事長、田畑雅英学長、竹下昌之専務理事、速水俊裕常務理事が相模原市役所を訪問し、本村賢太郎市長に面会しました。

風間理事長から、2021年度にスタートした本学園の中期計画に基づく取り組みや、これまで進めてきた相模原市との連携をさらに発展させていきたいとの意向をお伝えし、今後の相模大野のまちづくりについて意見交換が行われました。

また、本村市長からは、「相模女子大学との連携をさらに進めるとともに、市が推進しているSDGsの取り組みについてはぜひ協力してほしい」とのお話をいただきました。

（総務課）



相模原市役所を訪問

大学院・大学・短期大学部

依田ゼミの学生が島根県海士町向けの提案発表会を実施しました

4月11日（日）、英語文化コミュニケーション学科依田ゼミの3年生有志4名で構成される「チーム海士町」のメンバーが、島根県隠岐郡海士町の株式会社海士町に対し、自らのインターンシップ体験をもとにした提案発表会を実施しました。

今回の発表は学生らが参加した海士町のインターンシッププログラムの一貫として実施されたもので、インターンシップの事後研修として現地体験に基づく分析と提案をし、その成果を発表しました。発表テーマは「インターン

きっかけとした観光」です。地域活性に取り組むインターンシップとして多くの若者に島に来てもらうことで、海士町ファンを増やし、長期的な観光活性化につなげる提案をしました。

株式会社海士の青山敦士代表取締役からは、「学生ならではの新鮮な視点に加え、地に足のついた具体的な提案である点が評価できる。是非、今後につなげていきたい」とのコ

メントをいただきました。

（英語文化コミュニケーション学科・依田）



当日のオンライン発表の様子

「栄養士入門講座」に3名の卒業生を講師としてお招きし、講演をしていただきました

4月24日（土）、新入生対象の授業「栄養士入門講座」の一環として、栄養士としてそれぞれの場で活躍の食物栄養学科の卒業生3名（保育園栄養士、病院栄養士、当学科助手）を講師としてお招きし、これから栄養士を目指して学び始めた食物栄養学科の1年生に向けて講演をしていただきました。

卒業生からは、卒業後から現在に至るまでのお話を通して、栄養士としての仕事のやりがいや学び続けることの大切さ、学生生活のアドバイスなど、大変実のある話をしていただきました。

学生たちにとっても、先輩方の貴重な話を聞いたことで大変有意義な時間となったようです。

(食物栄養学科・深作)



講演の様子

大船渡市より復興支援学生ボランティア委員会が贈呈した紙芝居への御礼状を頂きました

東日本大震災の発生以降、本学では学生による「相模女子大学復興支援学生ボランティア委員会」を結成しました。年に2回大船渡市を訪問し、継続的に活動を行うことで交流を深めてきましたが、昨年度からは新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大船渡市への訪問が叶わない為、今年の3月に市花の椿を題材とした物語を「紙芝居」として製本したものを贈呈しました。

贈呈した紙芝居は大船渡市の保育施設や市立図書館にて読み聞かせにご活用頂き、この度その活動に対する御礼状を頂戴しました。御礼状には大船渡市の戸田公明市長からのお言葉や、各保育施設で紙芝居を楽しんでくれている園児達の写真も添えられており、改めて学生の活動意義を感じることができました。

復興支援学生ボランティア委員会は今後も大船渡市と共に、将来に向けて明るく魅力あるまちづくりに取り組んでいきます。

(連携教育推進課)

オンラインによる「コミュニケーション講座」が開講されました

6月上旬、学修・生活支援課ラーニングコモンズ企画として、オンラインによる「コミュニケーション講座」が4日間にわたり開講されました。株式会社リンクに講師を依頼し、学生同士のコミュニケーション「セッション」と「社会人とのコミュニケーション」の2つのテーマで、様々な場面を想定した上で学生のコミュニケーション能力の向上を目指す内容でした。

講座では、初対面の人との信頼関係をつくるコツや、表情・姿勢・挨拶のマナーなどコミュニケーションの基礎を学んだ後、グループディスカッションを通して実践的な反復練習にも取り組みました。今回の講座を通して修得したスキルをこれからの大学生活や就職後に発揮していくことが期待されます。

学修・生活支援課が実施するラーニングコモンズ企画では、学生が授業や大学生生活で抱える悩みや不安を少しでも解消できるよう今後も様々な講座を開講していきます。

(学修・生活支援課)

中学部・高等部

全校で実施できた球技大会

今年度の球技大会は新型コロナウイルスが蔓延して以来久々に行われる学校行事だったので、感染防止対策など今までの球技大会とは全く異なる行事運営をしなければならぬことに責任と不安を感じていました。しかし生徒会や先生方、実行委員達の協力のおかげで自然と

不安は活力に変わりました。当日は雨天による試合変更などトラブルが多々ありましたが、最後まで球技大会をやり切ることができ達成感を感じました。

今回、球技大会を通して学校全体を指揮する為には臨機応変な対応と、判断力が必要であることを知り将来に活かせる経験ができたと思います。最後に、来年度も球技大会が生徒にとって楽しい高校生活を送れるスタートになることを願っています。

(高等部・須藤)



得点の喜び



思いを込めた一球



一つずつ丁寧に植えました



JAの方の説明をしっかりと聞きます

中学部2年生 農業体験が始まりました

例年6月に実施している中学2年生の林間学校が、今年度は中止となりました。代替行事として、学園内の大学の畑をお借りして農業体験を実施しています。大学の先生やJAの協力もあり、6月7日(月)に無事にサツマイモ等の定植をしました。非常に暑い日でしたが、植え方や育てる上で注意することなど積極的に質問する生徒の様子が見られました。食物を育てる楽しさと同時に農業の大変さも感じたようです。サツマイモの他に、夏野菜や果物も一緒に育てています。収穫まで成長の様子をしっかりと観察しながら、大切に育ててほしいと思っています。

(中学部・片山)

心の冒険プロジェクトアドベンチャーを実施しました

中学部2年生の林間学校代替行事の1つとして、NPO法人体験学習研究会にご協力いただき「プロジェクトアドベンチャー」を行いました。プロジェクトアドベンチャーとは、グループでの体験（アクティビティ、遊び、ゲーム）と振り返りを繰り返すことで、集団の中で自分の行動を客観視し、メタ認知能力を高めるものです。活動の中で、対話を重ね、楽しみながら関係を築いていく生徒の様子が見られました。午前の部が終わった後、「またこのグループで活動したい！」という声が聞こえるほど、各グループで良いつながりができたようです。葛藤や意見の違いがあっても、それをどのように相手に伝え、関係性を築いていくかを学ぶ、貴重な経験になったと感じています。

(中学部・片山)



目標達成のために試行錯誤しました



課題解決のために話し合いをします

小学部

2年ぶりの運動会

児童のパワー全開の頑張りが素敵でした

昨年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による休校で行うことができなかった運動会を、今年度は行うことができました。保護者の参観を各家庭1名に限定、午前中に低学年保護者の参観、午後に高学年保護者の参観として実施しました。運動会のメインプログラムである「全校演技」は、午前と午後1回ずつ実施。また、児童が直接組み合ったり密になったりするようような騎馬戦や綱引きなどの伝統的な競技は、残念ながら行うことができませんでした。雨が心配されましたが、朝の準備が始めると雨も上がり、熱中症の心配がない気温とグラウンドの適度な湿り具合で、運動会を開くことができました。むしろ、運動会日和といえたかもしれません。

2年ぶりの運動会で感じたことは、パワー全開の児童の頑張りでした。全校演技で見せる子どもたちのやる気に満ちた表情と踊り終わったときの満足した表情は、本当にすてきでした。

(小学部・澄井)



小学部生活最後の運動会を頑張る6年生

「富士山自然体験学校」(6年生)を実施子どもたちの感動する心は大切

小学部としては約2年ぶりの宿泊を伴った校外学習を実施しました。ホテルの部屋のスペースが問題で、4年生の三浦体験学校、5年生の臨海学校は、日帰り形を変えて実施となりましたが、小学部生活、最後の年に当たる6年生の富士山自然体験学校は、なんとか宿泊の形で実施したいと考えました。そこで、学年をAチームとBチームに分け、1日ずつらして出発、1泊の実施としました。中日は、現地で学年全員がそろって活動します。

富士山自然体験学校の目的は、日本の代表的な山である富士山によって形成された青木ヶ原樹海などの森や溶岩樹形、溶岩ドームによってできた洞窟などを体験することです。

ガイドさんの案内で実際に森を散策して説明を受けたり、洞窟に潜って、自分の目と体で確かめたりする見学活動は、子どもたちにとって大きな感動がありました。

(小学部・澄井)



青木ヶ原樹海についてガイドさんから学ぶ



溶岩樹形を探検する

認定こども園 幼稚部

お店屋さんごっこ

6月14日(月)から17日(木)にかけて、年長組によるお店屋さんごっこが開催されました。

年長組の子どもたちはお店を開くために、事前に商店街見学へ行ったり、普段お店ではどのように物が売られているかを思い出しながら、次々と出てくるアイデアを形にしていきました。

当日は、年少組・年中組・2歳児クラスの子どもたちがお客さんとなって「これ、ください」と来店。年長組による洋服屋・お菓子屋・レストラン・自動販売機屋など様々なお店屋さんからは「いらっしゃいませ!」〇〇はいかがですか?という可愛い声が飛び交いました。途中で売り物が足りなくなるというハプニングもありましたが、その場で作ったり、「予約してください」とお客さんに伝え後日売りに行ったり、子どもたち自身が考え行動する姿なども見られ、学年を超えた素敵な園行事となりました。

(幼稚部・佐藤)

年長さくら組 みんなで楽しんだ
「すぺしやる＊なつまつり」

7月30日(金)に「すぺしやる＊なつまつり」を実施しました。例年、年長組は一泊保育を行っていますが、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から半日だけの開催とし、園外活動・すいか割り・綿あめを食べながらの映画鑑賞・夕食など、スペシャルな内容を盛り込みながら楽しい時間を過ごしました。すいか割りでは、徐々にヒビが入っていくのを見て「汁が出てきたよ!」と興味津々な子どもたち。割ったスイカはその場で切ってテラスでいただきました。クラスで力を合わせて割ったすいかは、格別だったようです。

行事の締めは、子どもたちが一番楽



洋服を作り足している様子



カレー・焼きそばを食べました♪



「力を入れて……えいっ!」

しみにしていた花火大会。打ち上げ花火やナイアガラなど、学内で保護者と一緒に見る花火は特別な時間となりました。最後の園生活で楽しい思い出ができたことをとても嬉しく思います。

(幼稚園部・篠崎)

「がんばれ!がんばれ!」
東京2020オリンピック

夏期の預かり保育期間中に、東京2020オリンピックが開催され、幼稚園部でも大型の電子黒板を利用して観戦する機会を設けました。子どもたちは世界各国の選手や様々な競技に興味関心を持ちながら「がんばれ!がんばれ!」と手を叩き、夢中になって応援していました。「先生、見ててね!」と選手の走り方を真似したり、高くジャンプしてみたり。国名や国旗、ユニフォームなどにも目を向けて盛り上がる姿も見られました。幼稚園部卒園の坂井承選手(板飛び込み)も5位入賞と大活躍!「お兄さん選手すごかったね。」と健闘をたたえ喜びました。

今回の経験が子どもたちの心に素敵な印象として残り、これから先、子どもたちの見る世界がぐーんと広がっていくと嬉しいです。

(幼稚園部・小橋)



「あ、バスケットボールだ!」



「じゃーん!世界の国旗だよ!」



「うわあー、走るの速いね!」



「んー、これはどこの国かな?」



やがて来る「必然」のために なつはづき

(平成3年学芸学部国文学科卒)



なつはづき氏



第一句集
『びったりの箱』

●19歳の私に

俳句をやっている「国文学科卒です」と言うと、「大学時代から俳句に親しんでいたのですね」と必ず言われます。でも残念ながら私が俳句を始めたのは40歳。当時は現代文学に夢中で卒業論文は安部公房でした。あの頃に戻れたら、19歳の私に「あなたは将来俳句をやるのだから、大学で俳句に直接役立つ授業を選びなさい」と言うのでしょうか。

●俳句との出会いと現代俳句新人賞

私が俳句を始めたのは、当時勤めていた会社が主催した俳句教室の「サクラ」を頼まれたからでした。生徒が集まらず、先生に失礼だからあなたも出なさい、と。最初は仕事の一環。でもどうせやるなら何か目標があった方がいいかな、と無謀にも「現代俳句新人賞」を目指すことにしたのです。取れたら皆びっくりするだろうな、驚かせたいな、と軽い気持ちで始めたのはいいのですが、1回落ち、2回落ち…。可笑しいものです、段々真剣になり、いつしか受賞だけが俳句をやる目的となっていました。落ちる事6回、7年かけて受賞。やれやれこれで少しは楽になるかなと思いきや、今まで以上に世界が広がり、多くの人との出会いがあり、責任も増え、俳句を続ける環境が整っていたのです。何より私は俳句をとっても愛して

していました。多分もう離れられないし、離れる気もありません。

●偶然と必然

俳句を始めたきっかけはただの「偶然」でした。人生には数限りない偶然があり、出来事の殆どが偶然です。ただ、そのうちの1つか2つが自分にとっての「必然」となるのです。何が必然となるのかは事前には分かりません。面白いのは、必然となった瞬間、今まで偶然だと思っていた事がすべてきちんと繋がる事です。大学時代、沢山取っていた一般教養の授業、教職課程、クラブ活動の演劇、それが今の講師の仕事にとっても役立っています。様々なアルバイト経験、学園祭に来て好きになったバンド、安部公房や夏目漱石、村上春樹の小説、夢中になった一つひとつの経験が確実に今の私の俳句の句風を支えています。

今は主に作家活動とカルチャーの講師をしています、これから現代俳句協会の研修部長の仕事、文化庁の伝統文化親子教室の講師、新しいステージが待っています。

19歳の自分に何と何と決まりました。「面白いと思う事は何でもやって、今を頑張って生きなさい」やがて来る必然のために。

ご寄付のお願いとお申込方法について

「マーガレット募金」を以下のとおり実施させていただいております。ご支援いただきました皆様に対し、心より御礼申し上げます。今後ともご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。
マーガレット募金委員会委員長 竹下 昌之

	令和3年3月末現在	令和3年7月末現在
マーガレット募金額	51,798,395 円	53,250,481 円

マーガレット募金

本学園の継続的な発展を目的とし、平成20年度に開設いたしました。用途について、「学習活動支援」「キャンパス整備」「教育・研究活動支援」よりご支援先を指定いただくことができ、また、「目的を指定しないご寄付」もお受けしております。

募金内容

この中でも「学習活動支援」については、「大学・短期大学部」「中学部・高等部」「小学部」「幼稚部」と支援対象をより細かく指定することができます。

皆様からいただきましたご支援は、ご指定の使い道に従って有効に活用させていただいております。

お申込方法 (個人の場合)

① お振込(郵便局または銀行窓口) ② 郵送(現金書留) またはご持参 ③ 自動振替での継続
詳細につきましては、大学ホームページ(<https://www.sagami-wu.ac.jp/>)をご覧ください。下記事務局までお問い合わせください。

●マーガレット募金 お問合せ先 学校法人相模女子大学 学園事務部 経理課
〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京2-1-1 TEL:042-747-9558 FAX:042-749-6500 E-mail:bokin@mail2.sagami-wu.ac.jp
●その他奨学寄付金等のご寄付に関するお問合せ先
相模女子大学・相模女子大学短期大学部 大学事務部 学術研究支援課 TEL:042-747-9570 FAX:042-743-4916



学校法人 相模女子大学